令和4年度富山市SDGs未来都市戦略会議　議事録

日時　：令和4年8月19日(金)13時30分～15時00分
場所　：富山市役所東館8階　大会議室
参加者：
＜委員＞

（五十音順・敬称略）

氏名	団体名・役職	備考
青木　一益	富山大学経済学部経営法学科　教授	
浅林　孝志	一般財団法人北陸経済研究所　理事長	
上坂　博亨	富山国際大学現代社会学部教授　理学博士	副会長
浦崎　滋 （代理：島田　善朗）	株式会社北陸銀行取締役　執行役員	
北村　和久	北陸電力株式会社　営業本部　営業本部室部長	
齋藤　滋	富山大学　学長	
堺　勇人	環境市民プラットフォームとやま　常務理事	
品川　祐一郎 （代理：島野　栄一）	株式会社品川グループ本社　代表取締役社長	
髙村　大輔	日本貿易振興機構富山貿易情報センター　所長	
土屋　誠	日本海ガス株式会社　代表取締役社長	
中村　正美	社会福祉法人富山市社会福祉協議会　専務理事	
成瀬　喜則	富山大学大学院教職実践開発研究科　教授	
藤井　裕久	富山市長	会長
藤田　香	株式会社日経ＢＰ　日経ＥＳＧ編集シニアエディター 東北大学生命科学研究科教授、富山大学客員教授	
本田　信次	富山市政策監	副会長
牧野　賢藏	株式会社インテック取締役　専務執行役員	
山本　覚	株式会社日本政策投資銀行　富山事務所長	
若木　洋介	北酸株式会社　環境エネルギー部長	

欠席：北岡委員、久保田委員、小松委員、新庄委員

＜事務局＞
企画管理部（企画調整課含む）：部長、次長、課長、課長代理、東福主幹、屋敷主任、筏井主任
財務部次長、防災危機管理部次長、福祉保健部次長、こども家庭部次長、市民生活部次長、環境部次長、商工労働部次長、農林水産部次長、活力都市創造部次長、建設部次長、病院事業局管理部次長、上下水道局次長、教育委員会事務局次長、消防局次長

次第　：
１　開　　会
２　議　　題
（１）本市のＳＤＧｓ普及啓発について
（２）第２次富山市ＳＤＧｓ未来都市計画に関連する主な事業及びＫＰＩの達成状況について
（３）ＳＤＧｓの達成に向けた連携について
３　閉　　会

配布資料：

富山市ＳＤＧｓ未来都市戦略会議設置要綱
富山市ＳＤＧｓ未来都市戦略会議　席次表
富山市ＳＤＧｓ未来都市戦略会議　委員名簿
資料１　本市のＳＤＧｓ普及啓発について
資料２　第２次富山市ＳＤＧｓ未来都市計画に関連する主な事業
資料３　第２次富山市ＳＤＧｓ未来都市計画におけるＫＰＩの達成状況
資料４　本市と民間企業等との包括連携協定締結状況（ＳＤＧｓ関連）
資料５　本日の意見交換のポイント
参考資料１　ＳＤＧｓの取組事例（企業・団体・大学等）
参考資料２　ＳＤＧｓに取り組む各種団体等の特集記事
参考資料３　国連広報センター作成「ＳＤＧｓ報告２０２１」

議事内容：

1. 開会

・富山市長の挨拶があった。

富山市は、公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトな街づくりを政策の柱に据え、様々な施策に取り組んできた。令和２年３月には路面電車の南北接続事業が完成し、コンパクトシティづくりのハード面での一つの姿が鮮明になった。こうした中、私は昨年４月に市長に就任し、選挙公約に掲げた「幸せ日本一とやま」の実現に向け、市民重視・現場重視・スピード重視の基本姿勢で、一年間は富山市の今までの施策を振り返りながら、将来に向けて様々な種を撒いてきた。今年度はその撒いた種に水・栄養分を与えて、ポストコロナを見据えながら、公約の実現に向けた取組を加速する一年にしたい。

その為に、ＳＤＧｓの推進は欠かせない。本市は平成30年６月に内閣府よりＳＤＧｓ未来都市に選定されたことを受け、市民の皆様へのサポーター登録の呼びかけやＳＤＧｓを実践するコミュニケーターの育成に加え、ＳＤＧｓウィークを毎年開催することで、市民や事業者におけるＳＤＧｓの認知度は大きく高まってきている。富山大学や県立大学の学生、高校生も含めた若い世代の方々、企業の方々、一般市民の方々、サークル活動をしている方々を含めたたくさんの方々の参加で大いに盛り上げることができた。それぞれのサポーターやコミュニケーターの登録の数も増え、活動も充実してきた。これも皆様のお陰であり、感謝申し上げる。

また、令和３年度から５年間を期間とした第２次ＳＤＧｓ未来都市計画では、コンパクトシティ政策をはじめとする持続可能な都市経営に向けた各種取組を、スマートシティやデジタル化をはじめとする新たなイノベーション技術を活用することで深化させ、これからの時代に対応したＳＤＧｓを行うことを盛り込んできた。特にスマートシティ政策は、これまでのコンパクトシティ政策との融合を図ることにより、どこに住んでいても便利さ・豊かさを感じ、みんなで安心して暮らせる富山市を目指すものであり、ＳＤＧｓの達成にもつながるものである。このため、スマートシティの実現に向けた司令塔の役割を担うスマートシティ推進課を本年４月に設置した。今年度中に仮称富山市スマートシティ推進ビジョンを策定するための作業を現在行なっている。また、昨年度まで環境部に設けていたＳＤＧｓの推進窓口を今年度から企画管理部が担うことにより、これまで以上にＳＤＧｓが理念とする、環境・経済・社会の統合的取組を機動的かつ組織横断的にするための体制を強化したところである。

本日はＳＤＧｓに関連する本市の主な取組やＫＰＩの達成状況、本市のＳＤＧｓの普及啓発に関し

てご説明を申し上げる。委員の皆様の取組を是非参考にし、今後富山市がＳＤＧｓを推進するために必要な視点について意見交換を行いたい。委員の皆様からは忌憚のないご意見を頂戴したい。

・事務局より、今年度新たに参加する委員について、紹介があった。
・事務局より、資料確認があった。
・副会長として、富山国際大学：上坂委員及び富山市：本田政策監が選任された。
・代理の議長として、富山国際大学：上坂委員が選任され、以降、議長の進行により議題を進めた。

2. 議題

(1)本市のSDGs普及啓発について

・事務局より、資料１「本市のＳＤＧｓ普及啓発について」を説明。

(2)第2次富山市SDGs未来都市計画に関連する主な事業及びKPIの達成状況について

・事務局より、資料２「第２次ＳＤＧｓ未来都市計画に関連する主な事業」、資料３「第２次ＳＤＧｓ未来都市計画におけるＫＰＩの達成状況」を説明。

(3)SDGsの達成に向けた連携について

・事務局より、資料４「本市と民間企業等との包括連携協定締結状況（ＳＤＧｓ関連)」を説明。

（質疑応答・意見交換）

・事務局より、資料５「本日の意見交換のポイント」を説明。
・事務局より、参考資料１～３について簡易的な説明

【議長】

・資料５「本日の意見交換のポイント」に焦点を絞りつつも、これは戦略会議であることから、何かを決める場ではない為、自由闊達な意見を求める。ＳＤＧｓ推進として難しく挑戦的に何かを議論するというより、包摂的に議論を進めていきたい。本日は、委員の皆様に今後富山市がＳＤＧｓを進めていくのにあたりどのようにしていけばいいかご意見・ご提案を名簿順に伺っていきたい。

【委員】

・今回から、事務局の担当が企画管理部となり、本来の姿に立ち返ったと高く評価している。ＳＤＧｓは経済・環境・社会を統合的に発想していくべきという意味では、官房的な部署が扱おうとしていると感じる。ただ、本日の説明の中で脱炭素の側面が弱いという印象を受けた。脱炭素は環境部が主管だと思うが、脱炭素も経済・環境・社会を統合的に捉えていく必要があるため、親和性が高く、脱炭素も置き去りにされないような推進体制を心掛けていただければと思う。
　また、パリ協定やＳＤＧｓで採用されているバックキャストの考え方について、これまでは富山市では積極的に取り入れていなかった印象であったが、今回の資料のキーワードとして挙げるのは大きな前進だと思う。第二次未来都市計画では自治体が自律的に事業選択してきたと思うが、その中で市民の声をバックキャストで集めたものを活かしていくという発想があると、それらを施策や事業のレベルに落とし込むのは大変だと思うが、より前進すると思う。

【委員】

・ここ１～２年、新型コロナウイルスの影響で価値観が変化した。例えば在宅勤務ができるようになり、働き方が変化してきた。また、ＤＸの重要性も変化した。例えば、災害時に、ＤＸを利用して情報共有を行うことにより、安全な対策を講じることが可能になってきた。コロナによる価値観とＤＸの変化の中で、さらに加速度的に何に取り組むべきかを考えることが重要ではないか。ＳＤＧｓは１７項目すべてが重要であり、世界中・日本レベルで全員が取り組むべきものである。その中で富山がやるべきことは、2030年の３つのあるべき将来像であると感じた。その３つのために具体的に何に取り組むか、どこに重点配分をすべきかを県民全体が関与しながら挑戦していくことが重要だと考える。

【委員】

・北陸銀行では、昨年４月より「ＳＤＧｓ評価サービス」の提供を開始し、中小企業のＳＤＧｓ宣言のサポートをしている。昨日時点で１６９件、うち富山県内５８件の支援をしてきた。また、本年４月より、「ＳＤＧｓ定型目標型ファイナンス証券」を作成した。こちらは中小企業がＳＤＧｓを身近に感じられるよう、簡易的な目標設定をしてそれに対してファイナンスをするものであり、7月末時点ですでに７６件、うち富山県内で３７件、この商材を扱ってきた。企業も少しずつＳＤＧｓに興味を持ってきていると感じる。しかし、お客様と話す中で、ＳＤＧｓをコストとしてしか捉えていない方もいる。今後はビジネスチャンスとして捉えてもらえるような啓蒙活動を市として積極的に取り組んでいただけると、市全体として盛り上がるのではないだろうか。

【委員】

・北陸電力は、太陽光発電所の設置や太陽光のオフサイト電源の開発等、エネルギーの地産地消にも現在力を入れている。先ほどのお話にもあった企業の中でＳＤＧｓをコストと考える流れがある一方、取引先から再生可能エネルギーの活用を強く求められることもある。北陸電力としては、そのあたりも含めてＳＤＧｓ及び再生可能エネルギーの普及に取り組んでいきたい。

【委員】

・富山大学と富山県立大学の先生とチームを組んで、小中学校を訪問して教育をしている。来年からはテキストを作成して専門的に行う予定である。また、行政職員のＤＸを扱う人材の育成も大切である。富山大学では、昨年より行政職員の人材育成事業を始めたが、資格を取るためのコースに県と市の職員にはほとんど参加していただけなかった。是非市の方から派遣していただき、行政でシステムを入れるだけなく、それを使いこなせる人材を育てることが市民生活にとって非常に重要である。

　また、市の各種事業を広報するだけではなく、市民の声を聴取してほしい。ＺＥＨについて、売電の事務手続きが半年もかかったという例がある。手続きをできる人材を増やしていかなくてはならない。実際の使用者の生の声を聴いて、事業に反映させてしていってほしい。

　経済の安全保障が大きな問題となっているが、その中でも少子化は最も大きな課題であると考える。森前市長にお願いし、産後ケアハウスを作っていただいた。産後ケアハウスは約一カ月しか使えないので、その後は、育児をする方々にヘルパーさんがつくよう予算をつけていただいた。産後ケアハウスは、全国から見学に来ているものであるにもかかわらず、ほとんど広報されていない。富山市は子育て支援でいい取組を行っているので、さらにＰＲしていただき、利用者を増やしていただきたい。

【委員】

・２点提案したい。

１つ目は、ＳＤＧｓの「知る、理解する、実践する」の３つの段階について、「進捗を測る」を追加していただきたい。ＳＤＧｓ未来都市計画としてのＫＰＩでは実際に進捗が見えているようだが、実際のＳＤＧｓは１７ゴールあって、それを包摂的・統合的に進捗を見ていく必要がある。例えば、ターゲット3.4に設定されている２つのグローバル指標のうちの一つである自殺率については、富山県ではＳＤＧｓ開始時の2016年と比べて増えてしまっている。富山市では保健予防課が自殺の動向を追っているので、そのようなデータをＳＤＧｓの俎上にあげることで、富山市があまりケアできていない部分などが見えてくる。最近はこのように進捗を測る取組が分野を越えてやられており、環境・経済・社会への実際の効果として測っていけるといい。ここにおいては当団体が市と協働して進めていこうとしているので、ぜひ「進捗を測る」という項目を追加していただけたらいいと思う。

２点目は、参加型・透明性を考慮し、本会議の資料や議事録を公開したら良いのではないか。ＳＤＧｓのゴール１６の６番（透明性のある公共機関）や７番（参加型意思決定）にまさに合致する取組である。富山県は昨年より公開しており、市民参加型でＳＤＧｓを進めていくことにつながると思う。

【委員】

・品川グループでは、社員が弊社の事業がどのゴールに関係しているのかを実感できるよう、社内報等でＳＤＧｓのマークを付けるなどして日々発信している。それにより、ＳＤＧｓの普及啓発に役立っていると考えている。

また、弊社はＭａａＳアプリのmy routeの事業に取り組んでおり、今年度末までに2万ダウンロードを目指している。自動運転の社会がやってくる将来をバックキャストで見通し、my routeを通じて人々の自由な移動が確保される社会の実現に向けて取り組んでいる。

【委員】

・２点述べたい。

１つ目は、ＳＤＧｓ普及啓発について、認知度は日本一ということで十二分に効果が出ていると思う。そこで情報を発信する側のサポートができればと考える。例えば企業経営の中でＳＤＧｓに取組んでいる企業が、目標を立ててＰＤＣＡを回したり、それを積極的に広報するのが参加している企業のメリットだと思う。全国に先駆けてＳＤＧｓに取り組んできた富山市において、参画企業がどのようなことをしているか、他の都道府県や海外に発信していくとさらなるＳＤＧｓの普及啓発につながるのではないかと思う。

２つ目は、ＳＤＧｓの達成に向けた具体的な取組について。公共交通利用率のＫＰＩが下がった理由がコロナの影響というのは全くその通りだが、その原因を細かく見ていく必要がある。例えば、低下したのがどの時間帯なのか、どの路線なのか、どのような目的での利用なのか詳細に見ていくことで、次に求められる対策の提案、様々な交通手段を踏まえたトータルなモビリティの提案が可能となる。また、実証中のグリーンスローモビリティの本格導入にあたっても、データを基に、補完するためにも必要であるという積極的な理由付けができるようになる。富山市の先進的な取組をパッケージ化して、海外に展開する際も、細かいデータがあるとより伝わりやすくなると思う。

【委員】

・２０２０年に弊社と富山市の間で包括連携協定を結んだ。包括協定の内容は抽象的なものであり、具体的な取組を考えていくことが私たちに求められている。我々はエネルギー事業者だが、環境やエネルギーにとどまらず、より身近なものとして連携協定に関わっていきたいので、富山市の方からもぜひ投げかけていただきたい。

　我々はＪ-クレジットやカーボンニュートラルに向けての商材を集めてきたが、これらはすべて国外や県外のものを買ってきている。富山市にもＣＯ２削減に向けての大きな商材があるので、地産地消や地域循環共生圏といった課題がある中で、皆様と協力しながら少しずつ何かを生み出すことができればと思う。エネルギー事業者として、２０３０年の低炭素社会の構築、その先の２０５０年（２０４６年）の脱炭素宣言の到達点に向かいたい。

【委員】

・ＳＤＧｓの普及啓発について、ここ４年間で認知度は非常に高まってきた。今後は、一般市民や中小企業がＳＤＧｓを自分事として捉えて、実践していくにはどうしたらよいか。資料１の「Ｉ．ＳＤＧｓを知る」の中で、ＳＤＧｓを身近に感じ、行動変容につなげるため、市内の優良事例をまとめた冊子を作成して、実践に活用してもらうとの記載があった。しかし、優良事例ばかりを記載すると、ハイレベルなものとなり、一般市民や中小企業が取り組みにくくなることが懸念される。誰もが日常生活の中で取り組むことができることを分かりやすく伝える内容にすることで、自分事として捉え、ＳＤＧｓへの理解を一層深めることにつながると思う。

　また、今後広く市民の方にＳＤＧｓの理念を浸透させて、行動変容にまでつなげていくことを目指すのであれば、分かりにくい言葉、英語等を使うのを避けて誰にでも理解できるものにいただきたい。実践につなげていくにあたっては、対象者によってＳＤＧｓの理解度にばらつきがあると思うので、対象者のレベルに応じたきめ細かい啓発をしていってほしい。

【委員】

・ＳＤＧｓ教育推進について２点で述べたい。

　１点目は、小・中・高校といった発達段階に応じて、ＳＤＧｓを自分ごとにすることが一番の課題であると思う。身近なテーマに落とすことで自分がどのように社会貢献できるかを考えることにつながる。その際に、体験・フィールドワークが大事であり、それが気軽にできるという情報を学校に提示する、或いは仲介していただくとＳＤＧｓがさらに身近なものになると思う。これができれば、現在一人一台配布されているタブレットを使って、自分たちで表現し、発信することが可能になる。

　２点目は、特に小学校において、家庭で保護者と一緒にＳＤＧｓを考えることがＥＳＤの浸透で大事である。子供と保護者を意識した学校教育が重要である。

【委員】

・４点述べたい。

　１点目は、中小企業と消費者をどう巻き込むかについて。ＳＤＧｓはリスク管理ということでコストになってしまうので、ビジネスチャンスの創出が必要である。これは中小企業にとっても重要なポイントである。そのメリットとしては、売り上げ向上や中小企業であれば融資を受けやすくなること、企業ブランディング、社員の士気向上等であると思う。融資については北陸銀行からのお話もあったが、そういった中小企業にとって地域の身近な金融機関がＳＤＧｓ融資を拡大してそれ

を普及することが重要である。社員の士気に関しては、その企業に勤めていることが幸せである、人的資本として評価されているという視点をもっと打ち出すことが大事である。

２点目は、市の施策について。さいたま市ではＳＤＧｓ認証制度を作成し、中小企業の登録を促している。富山市のヒントにもなるのではないだろうか。その評価基準は北陸銀行の評価基準やさいたま市の前例を採用するのもよいのではないか。

３点目は、学生の教育について。２０歳以下の学生は、小学校からＳＤＧｓを学んでいて、ＳＤＧｓ自体を知っているが、現場を知らない人が多い。そこで例えば、ＳＤＧｓに取り組む企業の社長に会ってみる、現場を見学する、コンビニの商品がどのようにＳＤＧｓと関連しているのかを見る等の現場を知ることが重要であると考えている。

４点目は、スマートシティ推進について。エネルギーとＩｏＴが中心になっていると思うが、廃棄物処理やリサイクルの強み、自然の豊かさといった「富山らしさ」を盛り込んでいただければと思う。カーボンニュートラル以外に、ネイチャーポジティブという言葉が今年おそらく流行になる。森林吸収源やブルーカーボンのような海での吸収といった最近の話題も取り込んで、「富山らしい」ＳＤＧｓ政策ができるといいのではないだろうか。

【委員】

・齋藤学長からの、富山市職員の基本的な姿勢に関するご意見について（研修等への積極的な参加や人材育成、市民の声をしっかり聴くこと、市の事業をしっかりPRしていくこと）、全て企画管理部の所管であり、本会議に担当者が出席しているので対応をしていく。また、各委員からの貴重なご意見に対しても、本日は各部局の担当者が出席しているので、実現するよう努力していく。

最近災害が多いが、災害時においてもＳＤＧｓに根差した対応が求められている。市では今年度防災危機管理部を設置し、毎年の防災訓練に加え、先月より避難所の開設訓練を開始した。スムーズな開設ができるよう、学校側と連携して取り組んでいる。今後は、実際の住民の皆様との運営訓練として、例えばＢＣＰや、ＳＤＧｓの観点から非常時の電源確保に関してＥＶ車両や再エネの活用、女性に優しい避難所の運営ができるよう、地域の方々や関係事業者等と連携して取り組んでいきたい。

脱炭素化支援機構やネイチャーポジティブは重要なキーワードである。市としては、県とワンチームでこういった事業に取り組んでいきたい。数年前も県に働きかけたが、本日の意見も踏まえて再度県の担当部局に投げかけていきたい。

【委員】

・認知度が全国一位ということは確かに実感できる。最初のスタート時から市が真剣に取り組んでくれたおかげである。

フォアキャストとバックキャストの両方の進め方を、子供たちが教育現場で身に付けて社会に出ることが重要である。子供たちがタブレットやパソコンを使って、物事の取り組み方や計画の立て方をバックキャストで学び、それを仲間と協力するスキルを身に付けることで、若い人材が育つのではないか。

企業としては、企業価値を高めるという観点からＳＤＧｓに取り組むことになる。どうしても財務情報が優先的になってしまうが、社員の働きやすさや働き甲斐、新規事業がイノベーションを起こせるかどうかといった非財務情報も含めて生産活動に取り組むことが重要である。

生産ネットワークについて、行政と企業の役割は変わってきている。昔は行政側に要望してきた部分が多かったが、現在は、行政はプラットフォームや実証実験する環境を準備してもらい、そこ

にアイディアを持つ企業がイノベーションを起こしている。行政がプラットフォーマーとしての役割をより強く担うことで、企業側も努力していき、将来につながるのではないか。

【委員】

・「本日の意見交換のポイント」に沿って３点述べる。

１点目は、ＳＤＧｓを「自分ごと」として捉え、それを実践していくには何をすればよいのかについて。すでに認知度は高くなったので、次は市民の中で共通して見えるもので共有していくといいのではないかと思った。例えば、富山は水が有名であるので、皆がマイボトルをもつことで、「富山らしさ」の取組を市民で共有し、「自分ごと」としてより捉えるようになり、まちのブランディングにもつながっていくと思う。

２点目は学校教育について。北陸三県の中でも富山市がＳＤＧｓに積極的に取り組んでいて、認知度が高いことを活かすことが差別化になり、近隣県からの修学旅行や社会科見学の誘致につながるのではないか。このようにＳＤＧｓ教育と、社会科見学等の観光の呼び込みというところで連携するのもいいと思う。

３点目はＳＤＧｓ達成に向けた具体的な取組について。脱炭素・ＥＳＧ金融に関連し、先週、当銀行と３つのメガバンクの４社で（株）脱炭素化支援機構を立ち上げた。１つ目の狙いは、国内企業の脱炭素の設備投資が今後増えるという点。脱炭素の設備投資は投資回収に長期間を要するので、金融機関同士でサポートするために立ち上がった。２つ目の狙いは、国内の金融機関が海外の投資家からの脱炭素・ＥＳＧの取組に対する評価が非常に低い為、それに対してやっていることを誇示するために立ち上げた。政策投資銀行の評価が低かった理由は、ＳＤＧｓ関連の融資対象のエビデンスがしっかりしているかという点、また、対象プロジェクトの効果に対するモニタリングが弱いことが原因であった。

【委員】

・中小企業としては、どうしてもＳＤＧｓに必要性を感じなければ企業活動の中で取り組みにくい。当社は、とりわけ水素エネルギーの普及や非化石証書の発行等、企業が必要になるようなものに対して地域で提供できるよう取り組んでいる。企業に対して脱炭素の推進をどのように行うべきかの方法論を明確に示すことが必要だと思う。自治体にはそれに取り組んでいる企業や団体にメリットやインセンティブを与え、逆に取り組みに積極的ではない企業には規制等を与えて色を付けていくことが必要ではないか。

【議長】

・事務局には、今回の多岐にわたった議論を整理していただき、議事録を回してもらいたい。それを見ながら、また新たな発想が出てくるのではないか。次回からはもう少し深堀りした議論をしていきたい。

3. 閉会